

ASUKU ASK



4

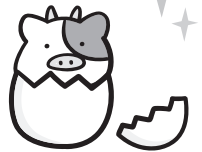
2026

No.447

NEW!

牛肉のブランド「キタノチカラウシ」デビュー!

—生活クラブの牛肉の新しいブランド名とロゴが誕生しました—



生活クラブの牛肉は、乳牛から生まれ、生産者・北海道チクレンが健康に育てた赤身中心の牛肉です。乳牛は妊娠と出産を経てお乳が出て、牛乳を生産することができます。乳牛から生まれたメス仔牛は乳牛に、オス仔牛は肉牛農家が健康に育て肉牛になります。北の大地で生まれた牛の「チカラ」を、生産者から食卓へまっすぐ届けたい。そんな想いを込めて、「キタノチカラウシ」と名づけました。特別な日のごちそうだけでなく、毎日の食卓で気軽に使える、身近で頼れる牛肉です。



牛肉レシピコンテスト開催!

テーマは「ふだんづかい」。いつものごはんにぴったりの、作りやすく食べやすい牛肉料理を募集します。

生活クラブの牛肉「キタノチカラウシ」を使ったオリジナルレシピを、応募フォームから投稿してください。レシピが生まれたきっかけや、思い出のエピソードもぜひお寄せください。入賞したレシピは、カタログやビオサポレシピサイトに掲載されるほか、入賞者プレゼントも用意しています。投稿は個人でもグループでもOK。赤身牛肉のおいしさが広がる、あなたのレシピをお待ちしています。

募集期間は4/13から6/30です。



「キタノチカラウシ」のここが推し!

その1 栄養たっぷりの赤身牛肉

赤身牛肉は脂身が少なく、高タンパク・低カロリー。鉄分や亜鉛などのミネラルも豊富で、健康を気づかう毎日の食卓の心強い味方です。

その2 生産者の想いがつまったおいしさ

北海道の肥育農家が、ホルスタインのオス仔牛をエサや寝床にも気を配り、健康第一で育てています。

その3 安心につながる加工と流通

北海道チクレンが徹底した温度管理のもとで食肉加工を行い、鮮度をキープ。流通経路も明らかなので、安心して利用できます。

contents

P1 牛肉のブランド「キタノチカラウシ」デビュー!

P2 「やってみる」が合言葉! みんなでつくるブロック消費委員会「私たちの食卓から旬が消える?」

P3 地域福祉委員会「エコロクラブ」

P4 生活クラブの あいち 暮らしの根っこマルシェ

参加申込
QR有



「やってみる」が合言葉！ みんなでつくるブロック

尾張名古屋ブロック

経営委員会準備会は13人でスタートし、昨年12月から6回の話し合いを重ねてきました。第1次締め切りまでに集まった組合員活動申請書は40件。どれもが、組合員一人ひとりの「やってみたい」「こんなまちにしたい」という想いのこもったものでした。

そして、その一つひとつに目を通し、どんなふうに私たちの運動につながっていくのかを話し合いながら、ブロックとしての活動を組み立て、議案書に反映させていきました。

「まずはやってみる」。そうやって一歩を踏み出した組合員のパワーは本当に心強いものです。行動しながら仲間を増やし、尾張名古屋ブロックの活動が、愛知全体へと広がっていく。そんな未来を思い描きながら、これからも歩んでいきます。

西三河ブロック

ブロック化しても今まで通り活動を続けるにはどうしたらいいのか。決められた形に合わせるのではなく、みんなが動きやすい方法を探そうと、経営委員会準備会のメンバーで話し合いを重ねています。「これはどうする?」「こういう時は?」と考えることはたくさんありますが、最終的には「やってみないとわからないし、必要なら変えていけばいいよね」となります。

豊田センターでの活動方針説明会では「楽しそう」という感想をいただきました。そう見えているなら本当にうれしいです。やってみたいことがあれば、ぜひ手をあげてください。みんなと一緒にブロックをつくっていきましょう。



東三河ブロック

12月に経営委員会準備会を立ち上げ、7人のメンバーで話し合いを重ねてきました。「まちづくり」を中心とした活動計画を掲げ、豊橋センターに代わる新たな拠点での地域食堂や交流の場づくりなど、数多くのアイデアが生まれました。その中から、食と居場所のワーカーズ・コレティブの創出という目標も持ちました。

また、東三河ブロックには、豊橋の加工用トマト圃場や、豊川市音羽での米づくり・電源開発といった取組みがあり、愛知単協の掲げる「愛知版ローカルSDGs」をけん引する拠点でもあります。

今後は、東三河ブロックならではの強みを生かした取組みを進めることで、暮らしと地域を支える新しい拠点づくりを目指していきます。

消費委員会の



コーナー

私たちの食卓から旬が消える?

気候変動で漁獲量が減り、旬の魚も希少化しています。水産資源を適切に管理し持続的に利用するため、産地の課題を一緒に考えましょう。

魚の1℃はヒトの10℃の差

日本近海では、海面水温が100年で1.28℃上昇しました。魚にとって1℃の違いは、ヒトの10℃と言われるほど大きな変化で、今までいた生息域には狙った魚がいないことが多くなりました。

海流の変化が養殖業を直撃

寒流は栄養豊富でプランクトンも豊富な海流です。この寒流が南下して暖流とぶつかる潮目は、豊かな漁場となります。近年、暖流である黒潮の影響力が強まり、南方系

の魚が東北・北海道でも漁獲され、養殖漁業では、生育不良や大量死が発生しています。黒潮蛇行で、沿岸部の海水温が上昇したままの傾向があり、漁獲量は不安定な状況が続いています。

赤須賀のしじみが減った理由

赤須賀漁協(伊勢湾と木曾三川の淡水が交わる河口域に面する)は、2002年頃から漁獲量が減少。河口堰やダム建設で、川の流れが乏しくなり、しじみの産卵場に必要の砂や栄養分が山から流れなくなったからです。干拓や埋め立てなどで干潟が失われ、海岸に住む生き物が減少し、生態系のバランスが崩れたことも影響しています。



▲しじみ漁の様子

産地と共に豊かな海を守る

ダムや堰で、窒素やリンなどの山の栄養を蓄えた水が海に流れてこなくなり、海はプランクトンが育ちにくい状態になりました。魚が住みやすい環境にするためには、山の栄養が川を通じて海へと運ばれて海水と混ざることでプランクトンを発生しやすくし、栄養が循環する豊かな海にする必要があります。

(消費担当理事 小坂 礼子)



「エコロクラブ」

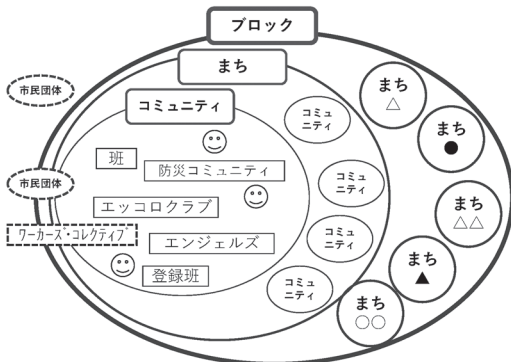
エコロ共済を使いあう関係

2026年1月末現在、66のエコロクラブが、様々なテーマで集まり活動しています。

エコロクラブは「つながる」「集まる」ことを目的に作られたしくみです。趣味や興味でつながる組合員同士が、気軽に「ちょっと手伝って」を言える関係になることで、エコロ共済を使いあう関係を広げていっています。



▲「秋を感じる糰子のスイーツ会」



▲組織再編 ブロックの組織イメージ図

テーマは多様!

読書会、お茶会、料理教室、環境について考える会、健康体操の会、ハンドメイドの会、外遊びの会などテーマは多様です。

活動補助あり!

エコロ共済加入者が4人集まれば結成できます。

年間5,000円(登録が10月以降の場合は2,500円)がエコロ共済より補助されます。

活動で単協施設が使用できると、エコロ講座実施時はエコピョン託児も使えます。

参加してみよう!

生産者交流会や試食会、映画会などの「集まる機会」に参加してみましょう。そこに、新しい出会いが待っています!

※お知らせは、ブロックが発行するニュースに掲載しています。



「コミュニティ」は線で区切られた特定の地域ではなく、自主的に活動する人が、住み暮らす地域で自由につくる集まりのことを指します。それは、時に歩いて行ける範囲の関係だったり、遠いけれど目的をもって定期的に集まる関係だったりします。そこには、生活クラブの組合員だけではない団体や、市民団体も含まれます。エコロクラブは、そんな豊かなコミュニティを形成する集まりのひとつです。

問い合わせ：生活クラブ 愛知本部 052-899-0770

同世代の親友が亡くなり、自分の死について考えるようになった。「お墓はいらないから骨は火葬場で処分してもらえばいいよ」と子どもたちに伝えると、「そうは言ってもねえ」と苦笑いされた▼確かに死後の領分だ。私の希望が通るかどうかはさておき、遺される家族が迷わないよう「ヒント」を残しておいてあげないと。そうして本棚で眠っていたエンディングノートを引っ張り出す▼書くぞと気合を入れて開いた瞬間、愛猫がノートの上に飛び乗りゴロンと寝そべった。「まだ早いよ」と引き止めてくれるのか。こうして私の終活は、今日も遅々として進まない...

(理事 谷口亜紀)



1月事業報告

組合員数	加入	脱退
10,945人	54人	-83人
出資金	1人当り出資金	
1,380,285 千円	124,456 円	
供給高	1人当り供給高	
215,902 千円	20,720 円	
▼共済加入件数		
ハグくみ	CO・OP共済	エコロ共済
1,339 件	4,665 件	8,447 件

生活クラブでんき契約者

累計449件(1月)	
再エネ100%プラン	25件
時間帯別プラン	14件

今月のリユース率

ビン	回収率(1月)
900mlびん...	114.7%
500mlびん...	95.1%
Rびん全体	87.2%



生活クラブ
でんき

グリーン
システム
30th
Reuse & Recycle



恒例となってきた
吹上イベント!



生活クラブの

みんな集まれ!

あいちぐらしの根っこマルシェ

5月 15日(金)・16日(土) 各日 11:00~16:00

会場:吹上ホール(名古屋中小企業振興会館)9F展望ホール

【消費材生産者】 10生産者程度 【その他コーナー】
【展示会生産者】 3生産者程度



▲昨年のマルシェの様子



▲情報はこちらから

ひまわりプロジェクト協力者募集!!

東日本大震災をきっかけに始まった「ひまわりプロジェクト」は、ひまわりを育て、その種を福島へ送る取り組みです。送られた種は現地で活用され、地域支援や交流へとつながります。栽培は庭や畑、休耕地、プランターなど身近な場所で可能。花を育てる時間が、遠くの地域と心を結ぶ力になります。できることから一歩を踏み出してみませんか。



問い合わせ: TEL 052-899-0770 担当: 井手

申込は二次元コードから →



今年もやります!本格援農!

チーム☆チャレンジトマトを結成し、コーミ(株)の自社農場での定植や収穫作業の補助を行います。

- ◆現地集合が基本です
- ◆有償ボランティアです
- ◆コーミ(株)の消費材プレゼントも
- ◆組合員家族の参加も OK

問い合わせ: TEL 052-899-0770 担当: 小島

興味がある方は二次元 →
コードから問合せください



組織再編で描く our story ~最終回~

◆既に動き出しています

ブロック体制で目指す姿を理解するためのワークショップを経て仕組みづくりの準備会、そして2026年度の活動を見据え方針作成(議案書)の経営委員会準備会と進んできました。着々と「想い」は集まり、「形」を表し始めています。

2月には皆さんの手元に「ブロック結成大会開催のお知らせ」が届き、3月には「ブロック結成大会」が開催され、いよいよ動き出しました。

◆ワクワクを伝えます!

この1年、ASK紙面で「組織再編」で目指す姿と「動き」を発信し続けてきましたが、「わからない!」「伝わってこない!」という声も受け止めています。

理事会としてもどう伝えるか悩みましたが、私たちは「動きながら伝える」を選びました。

組織再編初年度の2026年度、皆さんに「あ~そういうことか」と言ってもらえるよう、私たちのワクワクを「実践」で伝えていきます。

◆ここから始まるOur Story

生活クラブ愛知も2029年には設立40周年を迎えます。

当然、設立当時とは社会情勢も違いますし、活動する組合員も変わり合ってきています。しかし、変わっているけど「生活クラブ運動」の本質は変わりません。

変わり続けるから、変わらない。そんなOur Storyを組合員みんなで紡いでいきます。

(理事長 中野 京子)

発行日: 2026年3月16日 発行部数: 10,000部 発行責任者・編集: 理事会 編集・作成: デザインコーカー・文COCOT 印刷: 株式会社マルフ
生活クラブ生活協同組合愛知本部 〒466-0045 名古屋市天白区野並1-120 TEL 052-899-0770 FAX052-899-0802 名古屋センター: TEL 052-899-0801
尾張旭センター: TEL 0561-55-3611 豊田センター: TEL 0565-28-8345 豊橋センター: TEL 0532-65-9750 ひだまり館: TEL 0564-73-2767